

校友会会報

No. 28



酪農学園大学同窓会校友会

2022年1月1日 発行

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地 同窓生会館内
TEL (011) 386-1196 FAX (011) 386-5987
E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp HP https://kouyukai.rakuno.org

発行 酪農学園大学同窓会校友会
印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

コロナ禍における校友会

酪農学園大学同窓会校友会 会長 野 英二

はじめに

会員の皆様におかれましてはご健勝のこととご推察申し上げます。また、日頃から酪農学園大学同窓会校友会に対し、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

コロナ禍のため、2021年度理事・代議員会は中止となり書面議決が実施されました。任期満了による役員改選で会長に選任されました、野英二（酪農学科11期）と申します。

私は1974年酪農学科卒業（11期生）、1976年本学に農場専任教員として採用され、2017年に定年退職しました。現在は本学の基盤教育である「健土健民入門実習」、「建学原論」担当の非常勤講師として微力ながら本学の教育に携わっております（本年度末で満了）。同窓会関係各位ご協力の下、役職を遂行していきますので、小山久一前会長同様よろしくお願いいたします。

校友会の事業

コロナ禍の下では、同窓会の事業運営に支障が生じることも懸念されます。一昨年の周年同期会は大学開学60周年記念事業と合同開催の予定でしたが、中止せざるを得ませんでした。次年度は周年同期会のみではありますが、開催されることを願っています。

学長からのコロナ禍による困窮学生への「食の支援事業」の協力要請に基づき、校友会と酪農学園同窓会の後援で支援事業を実施しました。同窓生が生産した米と農産物（馬鈴薯、玉葱、人参など）、企業から提供された食材を1,000名の学生に配布いたしました。ご協力賜りました方々にお礼申し上げます。次年度以降も在学生に対する有効な支援策を検討していきたいと思っております。

建学の精神とSDGs

(Sustainable Development Goals)

2015年国連サミットで採択された持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成



され、地球上の「誰一人取り残さない」目標です。酪農学園大学では、2019年にSDGsに取り組むことが決定されました。「建学原論」の担当者として、酪農学園設立の経緯と建学の精神、創立者の思い等を再確認すると、実にSDGsと合致していることを改めて感じました。酪農讃歌の歌詞にも表現されています。酪農学園大学の同窓生として、酪農学園大学を誇りに感じています。皆さんも同様の思いになって頂ければ幸いです。

校友会の目的は、会員の親睦交流、建学の精神の啓発、酪農学園大学の発展に協力することにあります。本年度の入学生数は定員数を割り込み、一同窓生としても憂う状況です。建学の精神の啓発を実践することが志願者の確保に対する有効な方策かもしれません。

おわりに

コロナ禍の状況下、ご健康に留意の上、安心・安全に過ごされることをお祈りいたします。また、今後とも同窓会運営・活動に対し、皆様からの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■循環農学類 「学類の近況」

循環農学類長 井上 誠司

同窓生の皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。われわれ学類教員一同は、昨年度同様、2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響下における教育を余儀なくされました。前学期はオンライン授業がメインとなり、引き続き学生と交流する機会が限られてしまいましたが、感染拡大が落ち着いた10月以降は、ほとんどの授業が対面に切り替わり、キャンパスに多くの学生がやって来るようになりました。賑やかなキャンパスはやはり良いものですね。

さて、本年度も教員の異動から報告しましょう。2020年度末に、高橋俊彦教授（畜産衛生学研究室）、寺脇良悟教授（家畜育種研究室）、丸山明教授（数量経済学研究室）の3名が定年を迎え退職されました。長年にわたり本学類の教育や運営にご尽力を賜りました3名の先生には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。なお、高橋俊彦先生は4月より副学長に就任され、引き続き本学の運営に奔走されていることを申し添えます。一方で、2021年4月には、菊佳男准教授（畜産衛生学研究室）、増田豊准教授（家畜育種学研究室）、正木卓准教授（農食法制度論研究室）の3名が本学の教員として着任されました。3名とも数年にわたる教育経験をお持ちで、かつまたそれぞれの専門分野の第一線で活躍されている皆さまです。本学においても、教育、研究、あるいは様々な業務の場で、本領を発揮いただけるのではないかと考えています。

おめでたい出来事もございました。本学ホームページでも紹介されましたが、2020年11月、山田未知教授（中小家畜飼養学研究室）が第50回日本養豚学会賞丹羽賞（学術賞）を受賞されました。受賞対象となった研究の題目は、「豚における地域資源の活用と飼育環境に

関する研究」です。なお、研究の概要につきましては本学ホームページをご参照ください。

残念な出来事もございました。それは学外での活動がほとんどできなかったことです。国外留学、国外調査は中止、国内に関しても道外調査は自粛という期間が長く続きました。フィールドワークを前提とした教育・研究に重点を置いてきた本学にとって、ただ事ではなかったのは言うまでもありません。

こうした状況を踏まえて、多くの教員は長距離の移動を伴わない本学周辺でのフィールドワークを積極的に行ってきました。小職もゼミ所属学生を引率し、江別市内で農家調査を実施したのですが、その結果、多くの示唆を受けています。学生は大都市に隣接する本学周辺が農業の盛んな地域であることを認識しましたし、教員は市内農業者の本学に対する様々な期待や要望を把握することができました。本学周辺の農業者との交流が如何に重要であるかを、再認識する良い機会となった次第です。

コロナ禍の収束はまだ見通せない状況にあります。どうか皆さまご自愛ください。今後とも本学類をよろしく願い申し上げます。



▲トマトケチャップ製造で著名な江別市豊幌地区の農業者・岡村恵子さん宅で調査を行う農業政策学研究室の学生

■食と健康学類 「学類の近況」

食と健康学類長 金田 勇

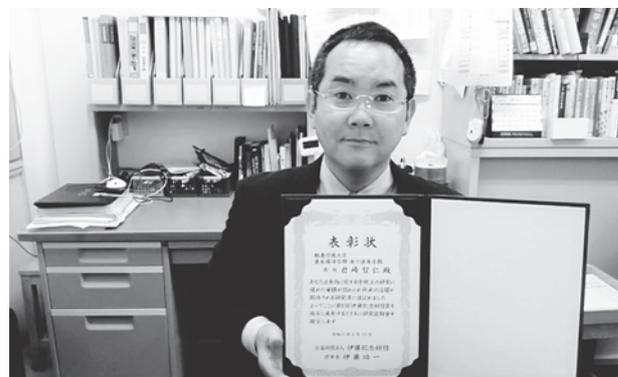
数回にわたる緊急事態宣言の発出と解除を繰り返し、相変わらず大学では大変な状況が続いていましたが、ここに来て（2021年10月）ワクチン接種や感染対策の徹底により少し希望が見えてきました。2021年3月の卒業式は2部制で参列者の人数を絞ってなんとか開催することが出来ました。2021年度の入試は衝撃的な結果になりました。農食環境学群はすべての学類で定員割れとなってしまう、食と健康学類では共通コースの入学者が80名（定員120名）と定員を大きく割り込んでしまいました。一方で、管理栄養士コース42名の入学者となり、なんとか定員を確保することができました。コロナ禍の影響で全国的に大学志願者が減少したという情報もありますが、様々な要因が考えられ、昨年度末より学群を挙げて入試対策に真剣に取り組んでおります。このように例年より人数が少ない新入生は4月には新装となった体育館での入学式に臨みました。これも2部制で参列者数を絞るなどの感染対策を講じて執り行いました。冒頭に述べた通り2021年度後期は緊急事態宣言の解除により危機管理ステージもさがり、授業は対面形式を中心に進めています。在籍する583名の学生と教員は「通常の状態」を取り戻しつつあります。

教員の異動につきましては2020年度末をもって白石治恵教授（英語表現・科学英語研究室）が退職されました。そして2021年4月より川端庸平准教授（食品物性学研究室）と松澤史奈助手（管理栄養士コース）が着任され、柴田啓介講師（健康スポーツ科学研究室）が循環農学類から異動になりました。また2021年9月にはかねてから病氣療養中であった樋元淳一教授（食

品流通技術研究室）が残念ながら病氣退職され、一方で白石先生の後任として金井彩花准教授（英文学研究室）が着任されました。

この1年間はコロナ禍により学生の活動が抑制されておりご紹介できるトピックが少ないのですが、うれしいお知らせがありました。岩崎智仁教授（応用生化学研究室）が公益社団法人伊藤記念財団より第6回伊藤記念財団賞を受賞しました（写真）。受賞の業績課題は「食肉加工への超高压利用、新規顕微鏡による食肉の顕微解析ならびに鶏の異常硬化胸肉に関する研究」ということで、これまでの研究成果が評価されての受賞です。岩崎先生のご研究の益々の発展を期待したいと思います。

厳しい入試環境を鑑みて現在学群全体で将来計画に関する話し合いが進められています。受験生にとって魅力的であり、活発な研究が展開できるような新しい学類の在り方を教員一同真剣に議論しています。今後とも食と健康学類の教育・研究に格段のご理解とご協力の程よろしくお願いします。



▲第6回伊藤記念財団賞受賞の表彰状を持つ岩崎智仁教授

■環境共生学類 「学類の近況」

環境共生学類長 中谷 暢丈

環境システム学部ならびに環境共生学類同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。また常日頃から、環境共生学類における教育研究活動等にご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

コロナ禍にありながら、本学では感染防止対策を徹底し、学位授与式を執り行うことができました。本学類からは、2021年3月に7期生116名、さらに同年9月には7名が社会へと巣立ってゆきました。一方、この4月には101名の入学者を迎え入れ、10月1日現在、学類全体として519名の学生が在籍しております。

さて、この間における教員の移動では、2021年4月に新しく開設された自然再生学研究室の助教として、千葉崇さんが着任されました。千葉さんは、学位を取得後、大学や財団法人で研究員や非常勤講師、特任助教を歴任されてこられました。専門は、第四紀地質や微化石、化石化過程、珪藻の生態であり、古地震・古津浪、高潮、海水準変動、地殻変動や土壌環境の変遷をテーマに研究をされておられます。地学および地学実験の他、地形・地質学、自然環境学実験・実習、水圏・地圏総合実習や生命環境学実験実習など、基盤から専門まで幅広く科目をご担当されており、教育研究での活躍が期待されます。

昨年度から続くコロナ禍に対し、学類では学生の安全確保と教育効果を高めるための工夫を凝らした教育を展開してきました。毎年の恒例となっていた洞爺湖での新入生合宿オリエンテーションは2年連続で中止となりましたが、今年度は野幌森林公園と北海道博物館を使った新入生交流会を実施しました（写真）。実験実習では、学内圃場への野生動物侵入防止のための

電気柵を昨年度から引き続いて設置したほか、野幌森林公園内の鳥類生息調査や土壌・植物調査を行いました。緊急事態宣言の発令が重なった夏季集中実習期間の学外実習の多くは現地開催を見送り、学内や遠隔での実施、後学期に延期するなど、柔軟な対応を行っております。在学生のみならず、学外者にも実習やゼミ活動を含めた学類の研究教育活動を広く知ってもらうために、公式SNSアカウントを開設しました。大学HP内の環境共生学類紹介ページ (<https://www.rakuno.ac.jp/department/symbiotic.html>) よりアクセスできますので、研究活動の様子を見ていただければと思います。今後も、学生の教育研究の充実と発展のため、教員一同努力を惜しまず、日々精進してゆく所存でございます。

環境システム学部ならびに環境共生学類同窓生諸氏のご健勝を学類教員一同、心よりご祈念申し上げます。引き続き、学類の教育、研究に格段のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



▲野幌森林公園内で実施した新入生交流会で教員の話聞く新入生

■獣医学類「学類の近況」

獣医学類長 樋口 豪紀

同窓生の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より獣医学類の教育、研究ならびにエクステンション活動につきまして、多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でしたが、昨年同様、全学的な取り組みの中で獣医学類でも学生の安全確保と学習環境の整備に学類教員が一丸となって取り組んできました。後学期からは多くの科目で対面授業が再開されておりますが、教壇に立って学生一人一人の顔を見ると、苦しい期間を乗り越えて「さあ、いよいよ、始まるぞ!」という意気込みを感じると共に、友達と机を並べる嬉しさから来る、たくさんの笑顔を目にしました。引き続き感染対策には万全を尽くしながら学習意欲に応えられる環境を提供して参りたいと思います。

今年度の教員異動についてご紹介いたします。2020年度に退職された先生方は前原誠也先生（准教授）、玉本隆司先生（准教授）、足立真実先生（嘱託助手）、大山紀彦先生（嘱託助手）、谷川慶一先生（嘱託助手）の5名です。これまでの本学でのご貢献に心より感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍を獣医学類教員一同お祈り申し上げます。

また、本年度より13名の先生方をお迎えすることができました。鳥巢至道先生（教授・伴侶動物外科学）、伊丹貴晴先生（准教授・獣医麻酔学）、山崎裕毅先生（准教授・伴侶動物内科学）、加藤桂子先生（助教・獣医麻酔学）、小千田圭吾先生（助教・生産動物病態学）、田村昌大先生（助教・伴侶動物内科学）、堀あい先生（助教・画像診断学）、守屋大樹先生（助教・獣医生理学）、弘川拓先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）、千里今日子先生（嘱託助手・予防衛生学分野）、田面木晴香先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）、八重樫里菜先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）、小久保大樹先生（嘱託助手・伴侶動物医療学分野）です。着任を心より歓迎申し上げますと思います。

学生の就職状況についてですが、こちらも同窓生の皆様には多大なご支援を頂き感謝申し上げます。2020年度は主な就職状況として小動物臨床55名、産業動物臨床25

名、公務員獣医師16名、進学3名でした。この他、民間企業や動物園、水族館にも多くの学生が就職しております。

本学における第72回獣医師国家試験（2020年度）の合格率は92.6%でした。第71回は非常に厳しい数字でありましたが、前号でご紹介いたしました通り、新たに設立した教員組織「国家試験対応委員会」が中心となり学習環境の整備拡充を行ってきました。講義内容の充実はもちろん、全ての講義について何回でも動画視聴できる環境を整備し、さらに5回の学力考査を導入することで、学生自身が不得意領域を明確に認識できるようにいたしました。これらの一連の取り組みが功を奏し高い合格率につながったものと思います。今年度の6年生にも同様の対応がなされており、昨年に続き好成績を残せるよう学類教員が一丸となって取り組んでいるところであります。

前号でもご紹介いたしました通り、現在、獣医学類は欧州獣医学教育認証（EAEVE）の取得に向けて準備を進めております。国内外において獣医学や獣医師に対する社会的ニーズが多様化・高度化する中で、教育の質保証は本学においても大きな課題となっております。酪農学園大学の獣医学教育は、獣医学科から獣医学類への変遷を経て、その長い歴史の中で他大学には無い多くの実績を積み重ねてきました。これらを基礎として、将来も社会から求められる、唯一無二の大学であり続けるために教育の国際化を標榜し、それに必要な教育システムとしてEAEVEの評価基準をまずはクリアして行く所存です。現在のところ2023年にFV（Full visitation: 現地審査）が実施される予定であり、現在は施設設備の拡充や、カリキュラムの展開に関する具体的な作業を進めているところです。本教育システムの実施にあたっては、同窓生の皆様にもご支援いただくことが多々あろうかと存じます。引き続き、ご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

獣医学科および獣医学類同窓生諸氏のご健勝を、獣医学類教員一同、心よりご祈念申し上げます。

■獣医保健看護学類 「学類の近況」

獣医保健看護学類長 菅野美樹夫

獣医保健看護学類開設 10周年、20周年に向けて

同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のこと
お喜び申し上げます。

日頃より獣医保健看護学類の教育及び研究活動にご
協力をいただき感謝申し上げます。

さて、ご存じの通り本学類は、日々発展していく獣
医臨床の現場でチーム獣医療を担う高い知識と技術を
持った動物看護師の育成を日々行っています。2021年
3月には7期生が巣立ちました。主な就職先は、伴侶
動物病院（60.6%）、動物関連企業（6.3%）、生産動物
関連企業（4.7%）、医療関連企業（3.1%）、公務員
（3.1%）、その他（25.3%）でありました。そして今年
4月、11期生となる68名の新生を迎え入れることが
できました。20年目に向けてのスタートの年となって
います。

学類内の話題について、お話ししたいと思います。
一つ目は、20年目のスタートの年に当たり、先生方の
所属を各個人研究室体制から3つのユニット体制に改
組しました。そのユニットは、動物生命科学ユニット
（教員3名）、動物と人間の関係学ユニット（教員4
名）、動物医療学ユニット（教員3名）で構成されてい
ます。目的は、ユニット内で協力し合い、より厚みの

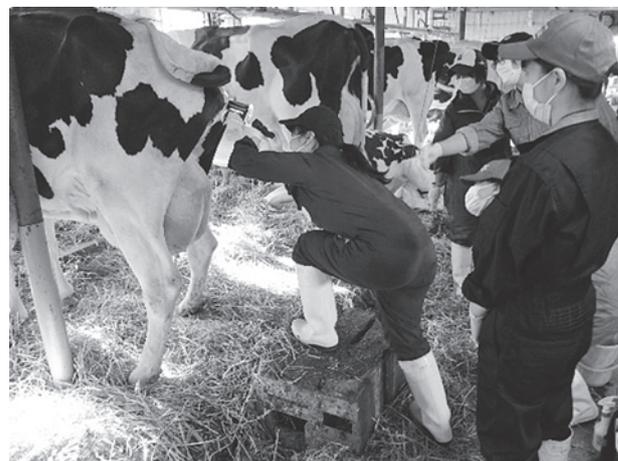
ある教育・研究ができるようにするためです。この中
には、動物福祉学がご専門の林英明教授、動物倫理学
がご専門の高橋優子准教授、そしてワンヘルスがご専
門の能田淳准教授が加わり、10名で教育を行っていま
す。幅広い教育・人材育成ができるものと確信してい
ります。

次に、2021年度も昨年度に引き続き新型コロナウイ
ルス感染症防止対策に力を入れていることです。学生
には不自由をかけますが、講義・実習等の一部で対面
授業から遠隔授業で進められています。後期に入り北
海道内の感染者も減少傾向となってきましたが予断を
許せない状況で学生へは、引き続きマスクの着用、手
洗い、アルコール消毒、距離を取った行動など新北
海道スタイルの遵守指導を行っています。希望者では
ありましたが、新型コロナウイルスワクチン接種が8月
下旬から9月下旬にかけて2回行われ、約50%の学生
がワクチン接種を済ませています。着実に感染防止が
図られてきています。学生の健康を守るため、今後も
積極的に指導を行ってまいります。

最後になりましたが、20周年に向けてのスタートを
切り教員一同、獣医保健看護学類の発展のため、覚悟
を持って努力する所存です。同窓生の皆様においても
健康に留意され、ご活躍されますことをご祈念申し上
げます。



▲学内動物医療センター実習（伴侶動物内科）



▲学内動物医療センター実習（生産動物往診）



新任のあいさつ



酪農学園大学 学長 堂地 修

日頃より、大学の運営および教育研究の推進に多大なご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

私は、2021年1月26日付で学長を拝命いたしました。微力ではございますが、皆様のご指導、ご鞭撻をいただきながら、酪農学園ならびに酪農学園大学の発展に努力したいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

私は元本学園理事長 平尾和義先生と前校友会会長 小山久一先生に家畜繁殖学を学び、1983年に酪農学科を卒業しました。卒業後、農林水産省で牛の受精卵移植等の技術開発と普及に携わり、1998年10月に本学に採用いただきました。

今日、18歳人口の減少に伴い受験者が減少する一方で農業関係の大学、学部・学科が多く新設され、志願者および入学者の確保が厳しくなっています。加えて、2020年の初めから起きた新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年度の卒業式、2020年度の入学式の中止や遠隔授業中心になるなど、本学は経験したことのない試練に直面しました。言うまでもなく、最もこの影響を受けたのは学生の皆さんです。2020年度からは、遠隔授業の体制を整え、感染対策に教職員一丸となり取り組みました。学内各所に消毒剤や体温測定器を設置するなど、迅速に感染防止対策を行いました。また2021年10月1日に大学拠点ワクチン接種が完了し、後学期からは対面授業を中心に行っております。これまで、授業等での感染者は出でず、教職員の皆さんの献身的な取り組みと学生の皆さんの協力に感

謝しております。

新型コロナウイルス感染症拡大は、学生の生活にも大きな影響を及ぼしております。そんな中、同窓会のご協力により2回の食糧支援を実施いたしました。

7月27日～29日は、JA道央のご協力も頂き900名の学生に米（一人当たり3kg）、JA道央管内生産のカレーを含むレトルト食品等、9月29日～10月1日には1,000名に卒業生の生産者の皆様からご提供頂きましたジャガイモ、玉ねぎ、ニンジン、米をそれぞれ配布しました（左下写真）。多くの学生から「ありがとうございます」「大変助かりました」との感謝の声を聞くことができました。あらためて同窓会の皆様に感謝申し上げますとともに、この企画にご尽力いただきました野会長、浦川事務局長、同窓会事務局の皆様にも感謝申し上げます。



今年度、獣医学群では定員を確保できましたが、農食環境学群では入学定員を満たすことができませんでした。現在の2学群5学類体制になってから初めての定員割れとなりました。全国の大学で受験者数が大きく減少したと言われおり、本学の定員割れも、新型コロナウイルス感染症の影響が一つの要因となったと考えております。今年度は、オンラインによる大学紹介を増やす等、積極的な入試広報も含めより一層の教育活動に努めており、来年度は入学者数が回復することを期待しております。



▲食の支援会場でお米を配る堂地学長と北岡副学長

黒澤西蔵先生が示された「三愛主義」「健土健民」「循環農法」の建学の精神・理念は、今日、世界が注目している持続可能な開発目標（SDGs）に通じるところが多くあります。創設以来、受け継いできた本学の建学の精神・理念に基づいた教育は、今日、社会が求めている人間教育であり、専門教育であると確信をしております。私も、建学の精神・理念を堅持して、取り組んで参りたいと考えております。今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

挙行

— 2020年度卒業式 2021年度入学式 —

～ コロナ禍で迎えた卒業式 ～

酪農学園大学・大学院の2020年度学位記授与式が3月18日（木）、本学健民館2にて行われ、教職員が見守る中、737名が学び舎を巣立ちました。今年度の式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、防止対策を講じたうえで、時間を短縮して午前・午後の2部制で行われました。卒業生代表の証詞では、「感染対策をしながらの卒業論文に向けての実験は、苦悩の連鎖でした。」というコロナ禍での苦労話や「ここで得た知識や経験を糧に、それぞれの道で発揮していきたいと思えます。」等の決意が述べられました。

▼マスク着用で学位記を受け取る卒業生



～ 黒いスーツに白いマスクの入学式～

4月5日（月）、2021年度 酪農学園大学・大学院の入学式が本学健民館2で執り行われ、新入生696名がキャンパスライフをスタートさせました。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催できず、2年ぶりとなりました（4/5の感染者数：全国1572人 北海道 71人）

式典は、小林大学宗教主任の司式のもとキリスト教の礼拝形式で行われ、堂地学長、谷山理事長からの祝辞では「必要とされる人材になれること」、「切磋琢磨して互いの夢を叶えていただきたい」等の激励がありました。



▲マスクをして入部を呼びかける先輩達

— 校旗寄贈への感謝状 —

1月29日、同窓生会館大会議室において、校旗寄贈の返礼として感謝状をいただきました。校旗は大学創立60周年を記念して大学同窓会校友会から酪農学園大学に寄贈（2020年11月）したもので、当日は押谷周年事業実行委員長が司会進行し、加藤事務局長、野前副学長からもご挨拶をいただきました。また、同席した堂地新学長は「今後校旗を大学のシンボルとして活用させていただきたい」と話し、最後に北岡副学長から閉会のあいさつが行われました。



▲谷山弘行理事長から感謝状を受け取る小山久一校友会前会長

食の支援事業 第2弾・第3弾を開催

第2弾

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアルバイト収入や仕送りが減り、生活が苦しくなった学生も少なくないため、そのような中でも安心して学び続け、生活ができる環境づくりを支援することを目的として「食の支援」を行いました。

第1弾は6月17日（木）に、本学および酪農学園生活協同組合の共同企画で実施され、第2弾は7月27日～29日の3日間、酪農学園大学と包括的連携協定しているJA道央の多大な協力により実現しまし

酪農学園大学の生活困窮学生の方へ
コロナ禍での学生（学生生活）支援企画

食の支援を行います!!

JA道央 酪農学園大学

コロナ禍で生活が困難している本学学生を対象に下記のとおり、「食の支援事業」第2弾を開催いたします。道央と酪農学園大学との包括的連携協定に基づき、お米など食料品の配布を行います。

日時 7月27日(火)～29日(木) 学生生活協同組合 学生会館 直授会場にお越しください

会場 酪農学園大学 学生ホール

持ち物 学生証、マイバッグ等

配布物 お米約3kg、レトルトカレー、生食ラーメンなど

*密集を避けるため入場制限を行う場合があります
*出入口付近や会場内では集まらず、速やかに配布物をお取りください
*数に限りがあります

お問合せ先 (学 生) 酪農学園大学学生支援課
(その他) 酪農学園同窓会事務局

協力: 道央 後援: 酪農学園大学同窓会校友会

た。この第2弾には酪農学園大学同窓会校友会が後援しており、学生には一人当たり お米3kg、う米豚レトルトカレー1袋、生食ラーメン2食他が配られました。

搬入や詰替え作業は猛暑の中、学長や副学長、学生支援課等多くの教職員の協力により行われ、開催は試験期間中であつたことから多くの学生がマイバッグを持って訪れました。初日は400名を超える盛況ぶり、一人暮らしの学生からは「お米は保存がきくので助かります。」という喜びの声がありました。コロナ禍であるため、三密にならないよう会場の



▲会場内に並べられたお米やレトルト食品



▲支援品を求めて並ぶ学生



ドアを開け放して換気し、一か所に止まらないよう支援品は間隔を空けて配置する等配慮しました。結果3日間で延べ900名を超える学生が足を運びました。

なお、協定先であるJA道央から「う米豚レトルトカレー」の一部や「生食ラーメン」をご寄贈いただきました。関係者の皆様のご支援、ご協力を、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

第3弾

9月29日～10月1日の3日間、大学同窓会校友会と酪農学園同窓会の後援で開催されました。今回は8月初旬から石狩、空知、後志の農家の方々や宮崎県支部、同窓会役員に呼び掛け、同窓生が生産した旬のじゃがいもや玉葱、人参、お米を沢山送っていただきました。その農産物は留学生を含む学生アルバイトにより小分けされ、前回好評の「う米豚レトルトカレー」、他企業や同窓生からの好意で寄せられた保存食品等と共に中央館ロビーと学生ホールに設置しました。3日間で1000名を超える学生へ配布することが出来ました。ご協力いただきました関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。



▲野菜をマイバッグに詰め込む学生

2021年度酪農学園大学同窓会校友会役員

2021年度は4月23日に事務局含め10名で理事会を開催しましたが、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発令される等、感染収束の目途が立たない状況に陥ったため、理事・代議員会については中止とし、議案は書面議決により決定されました。議案には役員改選が盛り込まれておりましたのでここでご紹介いたします（網掛け=新役員）

名誉会長
野村 武
獣医学科 1期



名誉会長
小山 久一
酪農学科 9期



顧問
大澤 宏一
農経経済学科 1期



顧問
北村 直人
獣医学科 4期



会長
野 英二
酪農学科 11期



副会長
上村 篤正
食品科学科 1期



副会長
志田 和仁
地域環境学科 1期



事務局長
加藤 清雄
獣医学科 5期



理事 (8名)

岡本 英竜 (酪農学科24期)	中出 哲也 (獣医学科12期)	山崎 耕太 (環境マネジメント学科 1期)
浦川 利幸 (農業経済学科12期)	上野 敬司 (食品科学科10期)	上井 仁美 (生命環境学科3期)
南 繁 (獣医学科6期)	浦上 渉 (食品流通学科 1期)	

監事 (2名)

下田 尊久 (酪農学科11期)	立川 直生 (地域環境学科 4期)
-----------------	-------------------

代議員 (22名)

小阪 進一 (酪農学科 8期)	植田 弘美 (獣医学科19期)	島田 恵子 (経営環境学科 1期)
*小笠原貴志 (酪農学科20期)	後藤 正光 (獣医学科23期)	永田 真弓 (経営環境学科 3期)
*岡本 吉弘 (酪農学科32期)	岩崎 智仁 (食品科学科 5期)	佐藤 里菜 (環境マネジメント学科 3期)
加藤 浩 (農業経済学科20期)	栃原 孝志 (食品科学科 8期)	石井 光平 (生命環境学科 3期)
品川 晴香 (農業経済学科45期)	近藤 美雪 (食と健康学類 4期)	秋吉 珠早 (保健看護学類 1期)
高橋 健 (獣医学科 2期)	西田 智 (食品流通学科 1期)	稲場 葵 (保健看護学類 2期)
小岩 政照 (獣医学科 8期)	松本 美哉 (食品流通学科 2期)	
廣田 和久 (獣医学科16期)	吉田 陽平 (地域環境学科 2期)	

*新たに2名が加わりました

役員あいさつ

退任

前会長 小山 久一

酪農学園大学校友会（以下、校友会）の皆様におかれましてはご活躍のことと推察いたしております。しかし長引くコロナ禍においていかがお過ごしでしょうか。ご案じ申し上げます。

さて、2021年度は校友会の改選時期を迎えましたが、コロナ禍のため代議員会を開催できず次期役員を書面

議決にて決定しました。校友会会長も私小山が退任し、新会長に野英二氏が選任されました。2期6年間に渡る会員皆様のご厚情、ご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。本来ですと代議員会にて退任の挨拶をすべきところでありましたが、校友会会報をお借りして皆様への感謝の思いとご挨拶を申し上げます。

前理事 佐藤 元昭

この度理事退任に当たりこの様な機会を与えられたこと感謝いたします。私は大学酪農学科20期生で学園に勤務しながらあまり同窓会とは関わりがありませんでした。数年前、今度会長になられた野英二先生からそろそろ同窓会に関わって小山久一先生（前会長）を手助けしてほしいと言われ何か出来ることが有ればと理事を引き受けることにしました。実際何の手助け

にもなりませんでしたが、小山先生が仰っていた、「とにかく親睦を図ることが最大の目的」と言うことで行事には参加させて戴き、楽しい時間を過ごすことが出来ました。今後新会長の下で益々校友会が盛り上がっていくことをご祈念いたします。



新任

理事 岡本 英竜



酪農学部酪農学科24期の岡本英竜です。以前は代議員を務めさせていただきました。このたび、理事の任に推挙されたことで、微力ながら尽力する所存です。

現在、農食環境学群において環境微生物学研究室を担当しております。

私が学生時代に所属していた頃とは研究室名が変わりましたが、日々学生たちと奮闘しております。

同窓会は、同窓生が学園・大学を応援する組織であると思います。様々な声が集まってくると推測されますが、学園愛のある声だと思えます。その声を受け止めて、学園・大学に響かせていきたいと考えています。

故 元酪農学園大学酪農学科同窓会長 石田貞夫先輩を思う

元酪農学科同窓会副会長 横山 明光（酪農学科4期生）

石田貞夫さんは1960年4月、酪農学園大学開校と同時に入学された一期生です。そして、4年後、卒業と同時に酪農学科同窓会の発足に当たり、初代会長としてその任を担われました。開校当時は酪農学部酪農学科の単科でしたので、当然同窓会は酪農学科同窓会でしたが、その後、農業経済学科、獣医学科と次々に新学科が設置され、新学科も卒業生を世に送り出すこととなります。そこで、各々の学科でも同窓会を設けることとなりますが、設立に当たり、石田会長は強力な応援・協力・指導を為されました。その後も、次々と新学科が誕生し卒業期を迎えるたびに同窓会設立がなされます。大学の長子としての酪農学科同窓会は、各学科同窓会の連帯・連携・協力を意識し、1989年に大学校友会設立への働きかけを経て改組し、酪農学園同窓会校友会として正式に酪農学園に位置付けられるようになりました。この大変なエネルギーのいる事業は石田貞夫会長の先頭に立った働きによるものです。

私は、酪農学科4期生ですので、石田先輩の指導

の下で酪農学科同窓会副会長の役割を担わせていただきました。石田貞夫さんには学生時代からいろいろとお世話になりました。忘れることのできないその一つは、クリスマスキャラバン活動です。セツルメント活動としての僻地の学校、子どもたちへの訪問です。私は「遠軽・勇別チーム」のメンバーでしたが、石田さんは、自分の出身地域でのこの活動に全面協力をしてくださいました。先輩は、樋浦誠先生（初代学長）の「三愛主義」をしっかりと受け止め、その実践者として、私達をリードして下さったのです。私もそのような先輩に続く者となろうと努力してまいりました。

現在の酪農学園は大きく、そして卒業生は全国各地で働いております。その活躍は偉大なものとなっております。石田先輩の突然の召天には驚きました。私達、先輩に続く者達は、酪農学園の卒業生である誇りをしっかりと持って、先輩の念願であった母校の発展につながる同窓生の結束への思いを大切にしていきたいと思えます。

大学合同周年記念同期会開催予定
～来年度は3期まとめて開催～

新型コロナウイルス感染拡大により残念ながら2020・2021年度と続けて延期となりました。そのため、2022年度は延期になった年度も合わせた開催となります。

次回のご案内はいつもの3倍となりますので対象の学科・期をご確認ください(以下の通りです)

対象の皆様には5月初旬頃ご案内文書を郵送します。久しぶりに声を掛けあい北海道旅行を兼ねて、懐かしい母校や仲間に会いに来ませんか。

酪農学科

【7、8、9、17、18、19、27、28、29、37、38、39、47、48、49期】

農業経済学科

【6、7、8、16、17、18、26、27、28、36、37、38、46、47、48期】

食品科学科【9、10、11、19、20、21期】

食品流通学科【13、14、15期】

経営環境学科【9期】 地域環境学科【9、10、11期】

環境マネジメント学科【2、3、4期】

生命環境学科【2、3、4期】

第29回ホームカミングデー開催予定

- 日時** 2022年7月2日(土)
- 会場** 黒澤記念講堂 他
- 内容** 記念礼拝：物故者追悼含む
記念講演：講師「下村 善計氏」
(農経OB 29期)
講師「工藤 英一氏」
(本学名誉教授 農経OB)

～事務局からごあいさつ～

酪農学園で18年半お世話になりました…

同窓会ではたくさんの学生、同窓生の皆様とかわることができ日々勉強になることばかりでした。現在の状況で人の集まるイベントなどが開催しにくく、ストレスの溜まることと思いますが、明るい未来を信じて日々過ごしていただきたいと思います。

片岡 美架〈退職〉

校友会でお世話になります

同窓会では9年間ご活躍された片岡美架さんが、昨年度末で退職されました。引き継ぎで一月程一緒にいましたが、解かり易く指導いただき、有難く思いました。本当にお疲れ様でした。今後は後任として微力ではありますが努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

佐藤 智代〈新任〉

物故者 2020年4月から2021年3月

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

石田 貞夫 (酪農・1期)	上代 裕幸 (農経・17期)
藤本 幸雄 (酪農・1期)	内生藏啓貢 (獣医・1期)
柴田 治彦 (酪農・2期)	宮本 皓一 (獣医・2期)
川口 宗美 (酪農・5期)	山口 久光 (獣医・3期)
後藤 昌弘 (酪農・7期)	福田陽之助 (獣医・6期)
福井 和孝 (酪農・18期)	芝 一美 (獣医・14期)
石橋 浩 (酪農・21期)	守永 正秀 (獣医・15期)
浅川 輝大 (酪農・44期)	高橋 伸一 (獣医・25期)
安藤 国広 (農経・3期)	佐々木瑛子 (獣医・43期)
富田 勇作 (農経・3期)	小林 聖 (食流・1期)
原田 宗夫 (農経・4期)	廣上 貴哉 (経環・5期)
原 勝巳 (農経・13期)	

敬称省略

会計報告 2020年度決算および2021年度予算について下記のとおり了承された

収 入 (単位：円)

項 目	2021年度予算	2020年度決算	2020年度予算	備 考
前年度繰越金	10,079,605	11,537,991	11,537,991	
新同窓会費	26,010,000	28,470,000	28,500,000	30,000円×659名 (大学院、転学類含む) 60,000円×145名 (獣医、大学院含む)
同窓会費	0	180,000	0	15,000円×12名
預金利息	5,000	4,867	5,000	
助成金	10,000	0	10,000	
ホームカミングデー分担金	200,000	0	200,000	ホームカミングデー開催中止
獣医同窓会費返還預り金	0	120,000	0	4名
雑収入	0	0	0	
合 計	36,304,605	40,312,858	40,252,991	

支 出

項 目	2021年度予算	2020年度決算	2020年度予算	備 考
校友会事業費	13,020,000	8,628,930	12,500,000	
入学式関係費	1,700,000	1,384,602	1,400,000	バスケース、案内文書
卒業式関係費	7,620,000	6,814,173	7,600,000	記念品、送付料他
在学生関係費	1,000,000	0	1,000,000	白樺祭等中止
同窓生関係費	0	0	300,000	記念品等の補充製作なし
ホームカミングデー関係費	0	0	300,000	ホームカミングデー開催中止
会報関係費	2,000,000	430,155	700,000	印刷代(ページ数減)
周年記念同期会退職記念祝賀会助成金	700,000	0	1,200,000	延期と中止
同窓会支部活動助成費	5,764,167	7,044,000	7,044,000	通信・活動費助成他
獣医同窓会活動費	5,187,000	4,161,000	4,161,000	28,500円×146名
代行徴収業務委託手数料	1,300,500	1,432,500	1,425,000	手数料5%(酪農学園)
同窓会費返還金	0	2,230,000	0	退学者90名分 (25,000円88名、15,000円2名)
獣医同窓会返還金	0	220,000	0	退学者4名分
校友会運営費	3,750,200	3,723,823	3,850,200	
会議費	100,000	0	100,000	書面議決
同窓会負担金	640,200	640,200	640,200	同窓会
人件費	2,600,000	2,550,949	2,700,000	事務局長手当て含む
通信費	60,000	224,686	60,000	HPリニューアル、電話・郵送料
旅費交通費	60,000	3,000	60,000	監査時交通費
福利厚生費	10,000	5,000	10,000	慶弔(花ギフト券)
事務用品費	0	86,658	150,000	コピー、トナー代他
消耗品費	200,000	145,240	50,000	ストーブ、ジヤスイ、噴霧器他
雑費	80,000	68,090	80,000	振込手数料
基金繰入金	1,000,000	0	0	定期積立へ(同窓生会館施設管理費)
雑支出	0	1,000,000	1,000,000	基金へ(同窓生会館施設管理費)
予備費	6,282,738	1,793,000	10,272,791	大学60周年事業記念校旗作製
小 計(a)	36,304,605	30,233,253	40,252,991	
当期余剰金	0	10,079,605	0	
小 計(b)	0	10,079,605	0	
合 計(a+b)	36,304,605	40,312,858	40,252,991	

(単位：円)

基 金	金 額
周年事業費	17,344,633
卒業記念事業費	54,460,000
同窓生会館施設管理費	3,000,000